

② 降圧薬の配合剤における特徴

配合剤の導入は、単剤を別々に服用する場合に比較して薬剤費を節減でき、錠剤数も減ることから服薬アドヒアランスの改善に有効です。しかし、血圧の季節的変動なども考慮すると投与量の加減など柔軟性に欠ける問題があり、有害な副作用が出た場合に原因の特定が困難になるなどの欠点もあります。

配合剤の使用に際しては、いくつかの注意点があります。

まず、添付文書には「過度な血圧低下のおそれ等があり、本剤を高血圧治療の第一選択薬としないこと。」と明記されています。配合剤は2つ以上の有効成分を含むことから過度の降圧が起こる可能性があり、単剤からの切り替えが推奨されます。

以下に、配合剤の導入に関する留意点を示します。

留意点	内容
① 過度な血圧低下のおそれ	配合剤は2つ以上の有効成分を含むことから、過度な血圧低下のおそれがあります。特に高齢者や腎機能低下患者において注意が必要です。
② 柔軟性の欠如	配合剤は投与量の加減が難しく、血圧の季節的変動などに柔軟に対応できません。
③ 副作用の特定が困難	有害な副作用が出た場合、原因の特定が困難になる可能性があります。

③ 降圧薬の配合剤の導入に関する留意点

配合剤の導入には、以下の留意点を考慮する必要があります。

留意点	内容
① 過度な血圧低下のおそれ	配合剤は2つ以上の有効成分を含むことから、過度な血圧低下のおそれがあります。特に高齢者や腎機能低下患者において注意が必要です。
② 柔軟性の欠如	配合剤は投与量の加減が難しく、血圧の季節的変動などに柔軟に対応できません。
③ 副作用の特定が困難	有害な副作用が出た場合、原因の特定が困難になる可能性があります。